

令和4年度 平塚労働基準監督署からのお知らせ（配布資料）

「大規模商業施設における労働災害防止（安全衛生管理）対策徹底のお願い」

令和4年9月
平塚労働基準監督署
安全衛生課



1 全国における労働災害発生状況（休業4日以上）の死傷者数

令和3年中に全産業で約14万9千人が休業4日以上労働災害に被災しています。業種別（大分類）でみると製造業が最も多く発生しておりワースト1（2万8千人）で、ワースト2は陸上貨物運送事業（1万6千人）、ワースト3建設業（1万6千人）と続きます。しかし業種分類上では、第三次産業をひとくくりでみており（第三次産業、8万人）、その中の商業では年間22,408人、接客娯楽業では8,748人が被災しており、この二つの業種を合わせると31,156人になりワースト1である製造業を上回る労働災害が発生している状況です。

2 平塚署管内における労働災害発生状況（休業4日以上）の死傷者数

令和3年 労働災害発生状況

全産業 558人（死亡0人）（前年同期456人（うち死亡2人））前年比+22.4%

新型コロナ関連の労働者死傷病報告受理数 令和3年中 51人

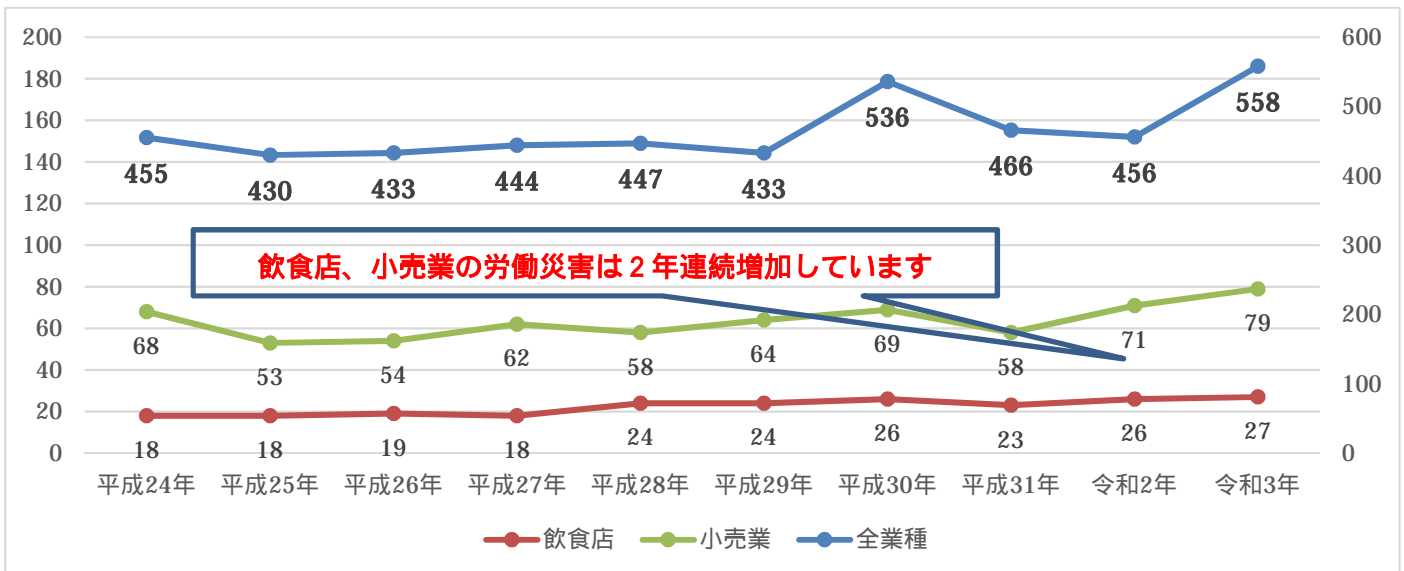
令和4年 労働災害発生状況（令和4年8月末現在）

全産業 397人（死亡0人）（前年同期319人（死亡0人））前年比+24.5%

新型コロナ関連の労働者死傷病報告受理数 令和4年1月以降 116人

商業（小売業を含む） 44人（前年比12人減、-21.4%）

接客娯楽業（飲食店を含む） 36人（前年比16人増、+80.0%）

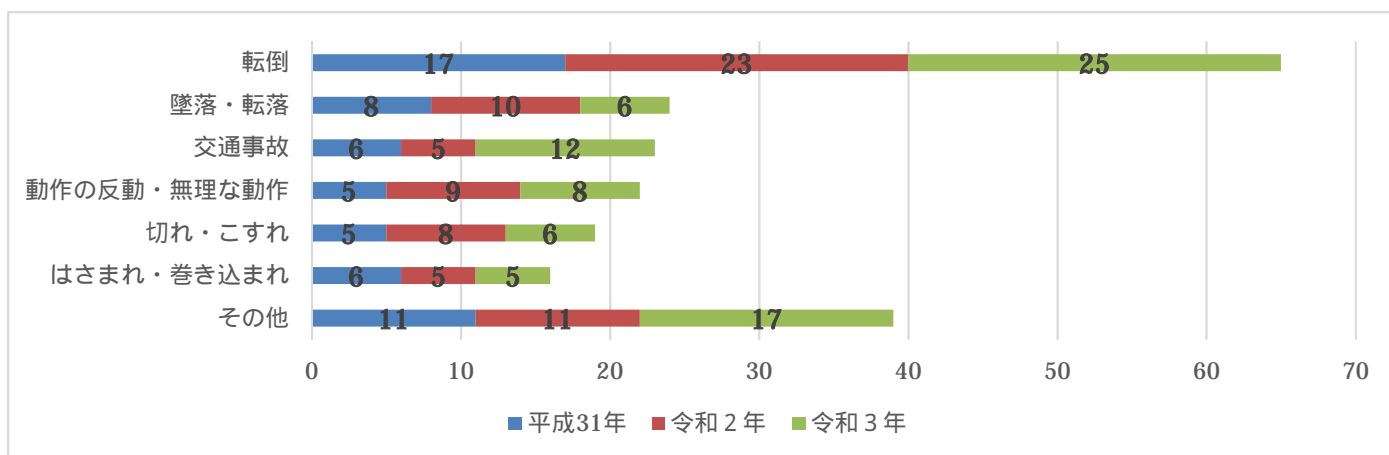


平塚労働基準監督署管内における13次防期間中の労働災害発生状況の推移（休業4日以上）

	13次防基準年 平成29年 確定値	13次防（初年度） 平成30年 確定値	13次防（2年目） 平成31年 確定値	13次防（3年目） 令和2年 確定値	13次防（4年目） 令和3年 確定値	13次防（最終年） 令和4年 8月末
飲食店	24	26	23	26	27	15
小売業	64	69	58	71	79	40
全業種	433	536	466	456	558	397
全業種目標値		428以下	424以下	420以下	415以下	411以下

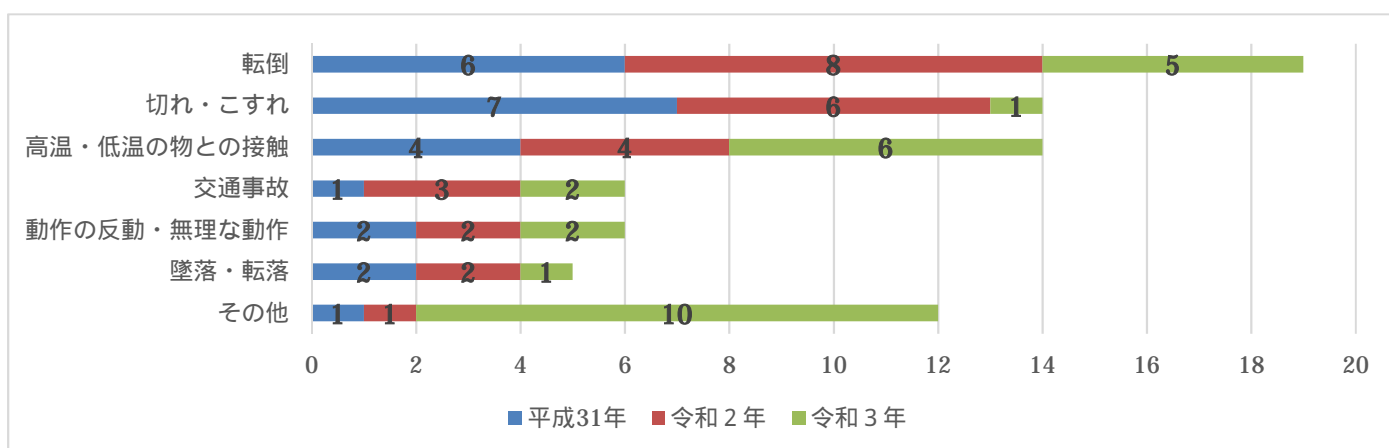
・第13次労働災害防止推進計画期間中において、1年目から4年目まで全業種の目標数は達成しておらず、本年（最終年）においても前年同期比で大きく増加しており、目標の達成は厳しい状況にあります。

平塚労働基準監督署館内における小売業の「事故の型」別労働災害発生状況(休業4日以上)
(平成31年～令和3年確定数)



過去3年間では平塚署管内の小売業では「転倒」による労働災害が最も多く発生しており、ワースト2の事故の型である「墜落・転落」と比べて2倍以上、全体の3割以上を占める状況です。

平塚労働基準監督署館内における飲食店の「事故の型」別労働災害発生状況(休業4日以上)
(平成31年～令和3年確定数)



過去3年間に平塚署管内の飲食店で発生した労働災害の発生状況を見ると、ワースト1「転倒」、ワースト2「切れ・こすれ」、ワースト3「高温・低温の物との接触」の順となっています。この3つの事故の型については年によって入れ替わりますが、例年全体の6割以上を占める傾向にあります。

平塚労働基準監督署における小売業の「年齢階層」別労働災害発生状況(休業4日以上)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
令和元年 (平成31年)	4	3	6	14	14	17	58
令和2年	0	8	5	15	19	24	71
令和3年	4	9	10	13	16	27	79

年齢別に労働災害発生状況を見ると、高齢労働者の就業人口が増えている影響もあり、40代以上で多く発生している傾向にあります。また、昨年、平塚署管内では10～30代の労働者の被災者数が前年比で倍増しており、該当する年代への安全対策の必要性が感じられるところです。

平塚労働基準監督署における飲食店の「年齢階層」別労働災害発生状況（休業4日以上）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
令和元年 (平成31年)	2	9	2	2	4	4	23
令和2年	3	5	0	3	10	5	26
令和3年	9	7	2	4	2	3	27

年齢別に労働災害発生状況を見ると、学生アルバイトなど若い世代の就業が多いことの影響もあり、10～20代に集中している傾向にあります。

令和3年については、過去5年の中でも前年比で大きく増加した結果となりました。本年（令和4年）に入ってから増加の傾向が続いています。また、7月末現在において前年比で増加が著しい「事故の型」は「その他（新型コロナ関連）」、「転倒」、「腰痛」の3つです。

3 今、管内事業場の皆さんにお願いしたいこと（主に3つあります）

ひとつ👉転倒および腰痛による労働災害の防止について

- ・全産業で最も多く発生している労働災害は「転倒」災害です。
- ・「動作の反動・無理な動作（いわゆる腰痛）」も年々増加しています。
- ・転倒の原因となる「滑り」「つまづき」「踏み外し」の要因を職場から無くすため、リスク管理の実施と作業環境を改善しましょう！
- ・転倒災害や腰痛災害の予防には、設備のバリアフリー化や作業自体の省力化なども有効です。同種災害を防止するためには、働く高齢者に配慮したエイジフレンドリーな職場づくりが重要であることから、高年齢労働者の安全衛生対策をあわせて進めてください。
- ・職場で腰痛災害を予防するためには、「職場における腰痛予防対策指針」の内容に留意し、**作業・作業環境・健康**の3つの管理と労働衛生についての教育を総合的・継続的に実施することが重要です。


高年齢労働者の
安全衛生対策
エイジフレンドリー
情報ページ
QRコード



STOP！転倒災害
情報ページ
QRコード



職場の安全サイト
転倒・腰痛防止用
視聴覚教材
QRコード




ふたつ 職場における新型コロナウイルス感染症対策実施のため

～取組の5つのポイント～を確認しましょう！

実施できていれば☑

テレワーク・時差出勤を推進しています。

体調がすぐれない人が気兼ねなく休めるルールを定め、実行できる雰囲気を作っています。

職員間の距離確保、定期的な換気、仕切り、マスクの徹底など、密にならない工夫を行っています。

休憩所、更衣室などの“場の切り替わり”や、飲食の場など「感染リスクが高まる『5つの場面』」での対策・呼びかけを行っています。

手洗いや手指消毒、咳エチケット、複数人が触る箇所の消毒など、感染防止のための基本的な対策を行っています。

☞厚生労働省では、職場の実態に即した、
実行可能な感染症拡大防止対策を検討していただくため

「職場における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」を
厚生労働省のホームページに掲載していますので、
具体的な対策を検討する際にご活用ください。

チェックリスト
QRコード



みっつ 熱中症の予防について

本年は梅雨明けが早く、7月までの職場における熱中症の死傷者数（死亡、休業4日以上）も過去5年の中で最も多くなっています。（全国）

平塚署管内においては、昨年、熱中症による休業4日以上労働災害は発生しておりませんが、今年梅雨明け直後に熱中症による休業災害の報告があり、例年になく酷暑の夏が続いている状況にあることから、まだまだ油断はできません。

厚生労働省では、STOP！熱中症クールワークキャンペーンを実施しており、4月を準備期間、5月から9月末までをキャンペーン期間と定めているところです。さらに今年は酷暑と電力需給量のひっ迫のおそれも見込まれることから、7月末に各省庁横断的な事務連絡が発出され、**熱中症対策の更なる強化について協力依頼**がなされたところです。引き続き、職場における熱中症予防対策の取組事項についてご協力をお願いします。


STOP！熱中症
クールワーク
キャンペーン
情報ページ
QRコード



厚生労働省
熱中症予防のため
の情報・資料サイト
QRコード



 **こまめに水分を補給する!**

 室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じていなくても
こまめに水分・塩分などを補給



4 小売業および飲食店での労働災害防止のポイント

労働災害発生状況を踏まえて、注意いただきたいターゲットは4つ

- ☞ 小売業、飲食店ともに最も多く発生している**転倒**による労働災害対策の徹底！
- ☞ 飲食店においては転倒と同じくらい発生している「**切れ・こすれ**」「**高温・低温の物との接触**」による労働災害防止対策の徹底！
- ☞ **高齢労働者**に対する安全衛生管理「エイジフレンドリーガイドライン」の徹底！
- ☞ **若年層である労働者**への安全衛生教育と技術伝承の徹底！

特に若年層の労働者(未熟練)および高齢労働者(再雇用含む)に対する安全衛生教育の徹底については工夫をお願いいたします。

雇入れ時の安全衛生教育を確実に行うことはもちろんのこと、定期的に安全衛生教育を実施することが望ましいです。

安全衛生教育不足で発生する災害の大きな要因は

「無知」「無視」「無理」のいわゆる3無い+「過信」です。

「無知」: 法律や社内、作業方法などのルールを知らない。また理解していない。

「無視・無理」: 定められたルールの存在は知っているものの、作業がやりにくなるので守らない。

「過信」: 「自分に限っては大丈夫」と考え、ルールを守らない。

5 全国労働衛生週間について

実施期間は、10月1日から10月7日までを本週間とし、9月1日から9月30日までを準備期間と定められております。

この期間中に、事業者および各事業場の安全衛生担当者の皆様には、

「あなたの健康があってこそ 笑顔があふれる健康職場」

を全体スローガンとして、事業場における労働衛生意識の高揚を図り、自主的な労働衛生管理活動の一層の促進を図ること、とされています。

具体的な実施事項は、実施要綱内で定められています。詳しくは、厚生労働省のホームページや中央労働災害防止協会のホームページ内にある情報をご確認ください。

実施事項の中にある労働衛生活動を行う上で重要な事柄を総点検することにより、従業員の皆さんが健康に、そして安全に働くことができるよう、職場改善につなげましょう！

その他、各種施策や法改正等の情報は
厚生労働省のホームページを参照ください。
URL: <https://www.mhlw.go.jp/index.html>



6 ココロとカラダ、はりきっていますか？

今年の全国労働衛生週間のスローガンは

「あなたの**健康**があってこそ **笑顔**があふれる**健康職場**」です。

健康と**笑顔**には「若さ」が不可欠です。

皆さんはカラダ**いきいき**していますか？ココロ**うきうき**していますか？

☑いきいきチェック☑

- 電車やバスに乗って空席があっても、立っていることが多い
- 駅や事務所の階段を一気に上がっても息切れしない
- タオルをきつく絞れる
- 手元の細かい文字もよく見える
- 肌にハリ・ツヤがある
- 首筋や手の甲のシワが気にならない
- 夜はぐっすり眠れる
- 夜中にトイレに行くことがあまりない
- 歩行中につまづくことがめったにない
- 少しつまづいたくらいでは転ばない
- 深呼吸をして息を20秒こらえられる
- 月に1回以上は運動する

☑うきうきチェック☑

- 政治や経済、教育など社会の動向に強い関心がある
- ときには明るい色柄の服も来ている
- 若い知人と一緒に行動したいと思う
- 新聞や週刊誌、Webなどの情報はすみずみまで目を通す
- 眠れないほどの心配事はない
- 買い物で電子決済（スマホ決済）を利用している
- 部屋の掃除や整理をよくする
- 趣味など体験したことがないような新しいことを始めたい
- 自分から電話やメールなどの連絡をすることが多い
- 海外の事情や外国語に興味がある
- 月に1回は映画を見たりコンサートを聴いたりする
- 1日に5人以上の人と話をする

8 最後に

サービス業における職場の安全衛生管理は、そこで働く人の職場環境の改善につながることはもちろんのこと、利用者（顧客）の安全、安心にもつながり、顧客満足度の向上にも期待ができるものです。労使が協力して、積極的に安全衛生管理活動に取り組むことができるように今後とも労働基準行政にご協力をお願い致します。

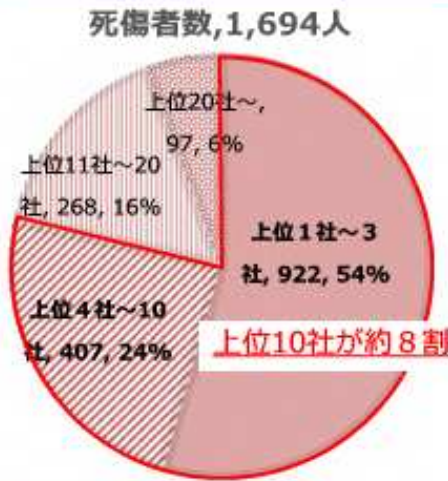
働く人たちが心身とも健康で、気持ちよく働けるように！

以下参考資料

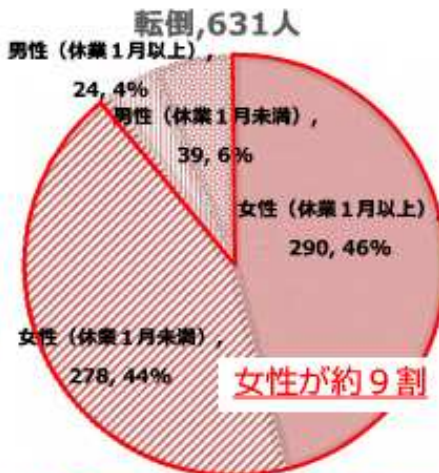
総合スーパーの労働災害発生状況

- 転倒の約9割が女性で、そのうちの約5割が休業1月以上。高齢となるほど多く、50代以上では骨折が約7割。

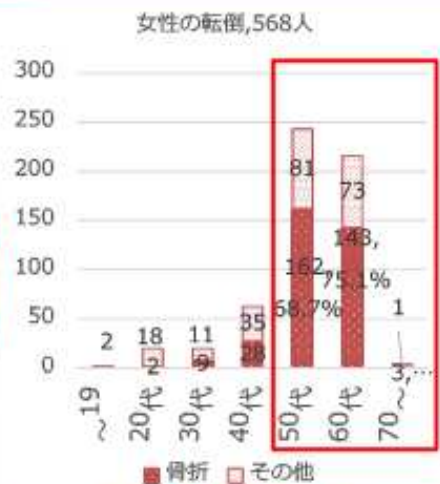
企業単位別



転倒災害 性別・休業期間別



転倒災害 傷病性質別・年代別



事故の型別



女性の転倒の約5割が休業1月以上

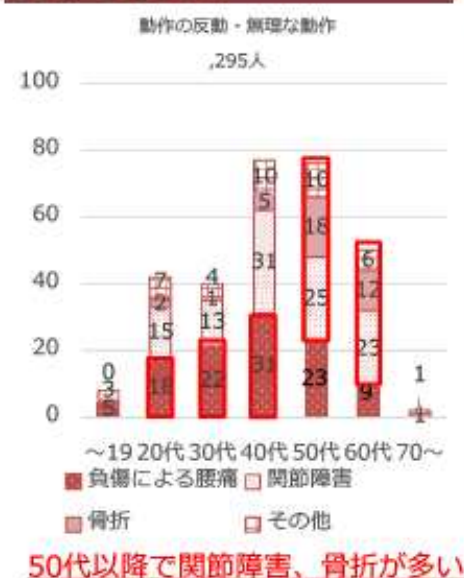
高齢となるほど多い
50代では骨折が約7割

出典：平成29年 労働者死傷病報告を元に中央労働災害防止協会が集計したものより抜粋

総合スーパーの労働災害発生状況

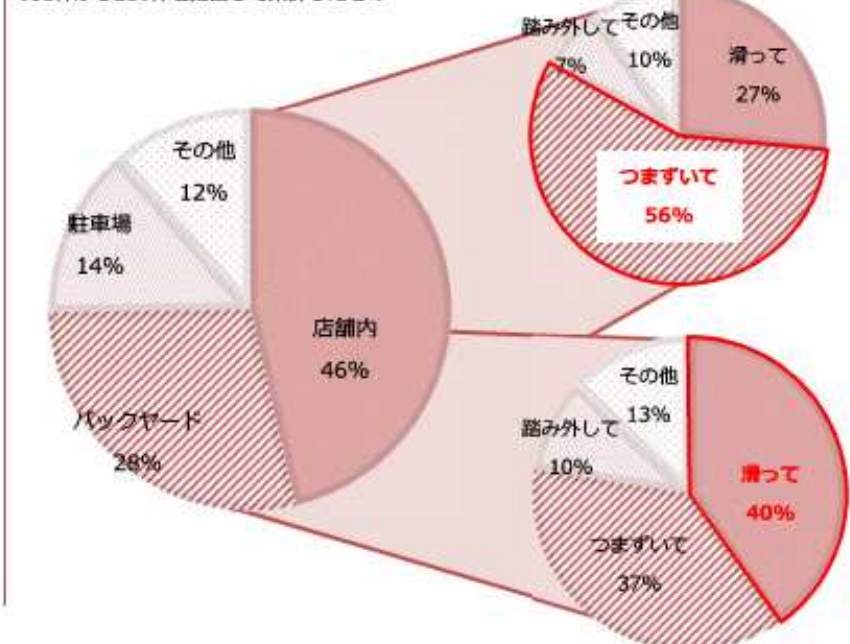
- 動作の反動・無理な動作による労働災害は、40代まででは腰痛が最多。50代以降は関節障害、骨折が多くなる。
- 転倒災害を場所別で推計すると46%が店舗内、28%がバックヤードで発生。店舗内での転倒災害のうち、つまづきによるものが56%。バックヤードでの転倒災害のうち、滑りによるものが40%。

動作の反動・無理な動作
年代別・傷病性質別



転倒災害 発生場所別・要因別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年に総合スーパーで発生した転倒による労働災害631件から216件を抽出して集計したもの



出典：平成29年 労働者死傷病報告を元に中央労働災害防止協会が集計したものより抜粋

以下参考資料

滑り つまづき 踏み外し

店頭での転倒に要注意

**10月10日は
転倒予防の日**



滑り止め
つけておきたい
口と足

数字で見る
食品スーパーでの転倒

労働災害のうち転倒
約 **4割**

休業1か月以上
約 **6割**

女性
約 **9割**

50代以上
約 **8割**

出典：平成29年 労働省死傷病報告より

2015年・転倒予防川柳大賞作品 (第2期 世川寿子)


厚生労働省 日本転倒予防学会

店長から従業員の皆さまへのお願い

小売業事業主の皆さまへ

人材確保のためにも 安全・安心な施設づくりに取り組みましょう

小売業における労働災害（年間総15341件）



転倒 全体の **34%**


動作の反動・無理な動作 全体の **16%**

その他 3963件
はさまれ・巻き込まれ 899件
切れ・こすれ 1107件
墜落・転落 1698件
出典：令和2年 労働省死傷病報告より抜粋


転倒 全体の **34%**

動作の反動・無理な動作 全体の **16%**

転倒リスクがある場所



出典：政府広報オンライン



出典：政府広報オンライン

例えば食品スーパーの転倒災害状況

出典：平成29年 労働省死傷病報告より

労働災害のうち 転倒 約 4割	休業 1か月以上 約 6割	女性 約 9割	50代以上 約 8割
------------------------------	----------------------------	-------------------	----------------------

安全・安心な施設づくりのために、裏面の対策に取り組みましょう

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

利用者・従業員の 安全・安心な施設づくりのため 下記の対策に取り組みましょう

作業場所の
整理整頓



危険箇所の
見える化



持ち物の
制限



作業場所の
清掃



手すりの
設置



重い物は
2人で保持



毎日の運動



滑りにくい
靴の着用



台車の利用



安全で安心な店舗・施設づくりに取り組みましょう！
詳しくはこちらをチェック！

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare

小売従業員が安心して働くために

整理・整頓
清掃・清潔



見た目きれいなだけでなく、つまづいたり転んだりすることお減りました

厚生労働省のホームページで4S（整理・整頓・清掃・清潔）の方法を公開しています。

危険の見える化



危険の原因が誰から見てもわかるので、事故やケガが減りました

厚生労働省ホームページで「職場の危険の見える化（小売業）実践マニュアル」をご覧ください。

設備の改善



滑らず濡れない靴のおかげで快適！

うっかり手を切る心配がありません！

職場環境の改善等のために、エイジフレンドリー補助金をご活用ください。

転倒・腰痛
予防体操



足を前に

足を後ろに

YouTubeで、転倒・腰痛の予防に役立つ「いきいき健康体操」をご覧ください。

厚生労働省 Ministry of Health, Labour and Welfare